

JR総連東海地方協議会 「浜岡原発見学」平和研修に参加！

10月16日～17日、2011年JR総連東海地方協議会平和研修が開催され延べ46名が参加し、新幹線関西地方本部名古屋車両所分会から3名が参加しました。

1日目は、静岡県御前崎市「浜岡原発」を見学し、2日目は、掛川市内のホテルに於いて、「原子力行政を問い直す宗教者の会」事務局の内藤新吾氏から「原子力と核」と題して講演を受けました。

現在、中部電力浜岡原子力発電所は6mの高さの津波に耐えうるだけの防波堤で、発電所が活断層の真上にあること。3月11日の東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の爆発事故で放射能が人体に与える影響により、原子力発電所が社会問題化されたこと。資本家や権力者は、金儲けの為に原発を推進する考えには変わりはないこと。福島



の事故で明らかのように、原発で働く下請け労働者が使い捨てのボロ雑巾のように扱われていること。青森県六ヶ所村の核燃料サイクル施設も活断層の真上にあり、敦賀の「もんじゅ」は、六ヶ所村と同様にプルトニウムが生産され、大量殺人兵器の「核」であること。原子力発電所を推進する為に政府が原発を受け入れた地域への補助金（税金）、原発開発財源、発電後の放射性廃棄物処理・核燃料サイクルは、コスト高

で安くないこと。原発でなくても電気は足りる等々の講演を受けました。



あらゆる戦争政策に反対し、反原発を声高に叫ぼう！